

ヌタウナギって??

ヌタウナギって知ってますか？

日本ではあまり利用されていませんが，韓国では食材として，また，皮革製品の原料として大いに利用されています。

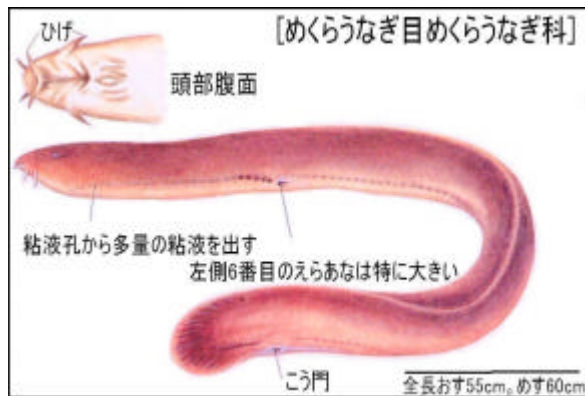
実は，鹿児島でも一部地域で昔から元気がでる魚として食され，ウナギのボスであると言われることから，“ボスナ”や“ボソウナギ”と呼ばれています。

現在では，県内の数カ所でヌタウナギの胴籠による操業が行われており，400円/kg前後で取り引きされ，活魚で韓国に出荷されています。出荷は買い取り業者が活魚車で取りに来てくれ，漁具は無償で貸与してくれます。

生態

分布域は，本州中部以南ほか朝鮮半島南部。体はウナギ形。目は退化し，皮下に埋没。

口は穴状。口がい骨に細くとがった小歯が1本ある。8から10月に産卵する。刺網などにかかり，弱った魚を襲う。



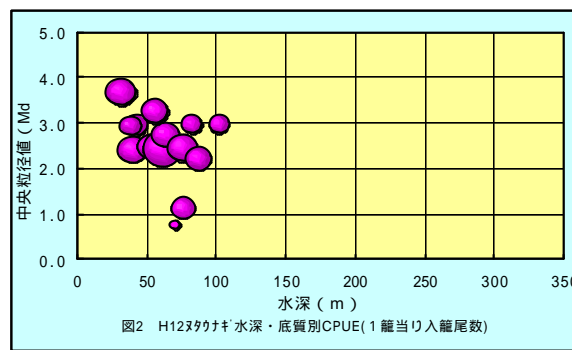
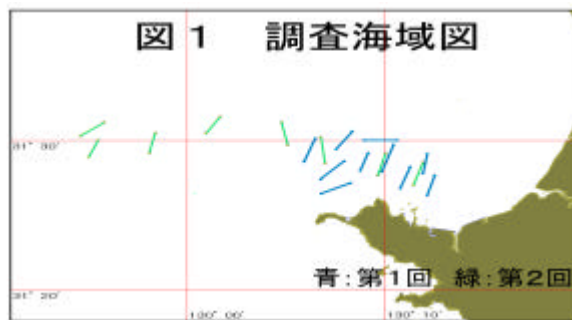
調査内容及び結果

表1 調査の概要

調査期間	第1回 12年 6月 8日～ 6月14日 第2回 12年11月28日～ 12月 4日
調査船	漁業調査船おおすみ(55ト)
調査海域	西薩海域, 水深10-305m
漁具・数	アナゴ胴籠(50個, 籠間隔50m)
餌料	冷凍中羽イワシ

表2 調査結果

	平均底層水温(°C)	平均底質(Md)	漁獲尾数	漁獲量(kg)	1籠当り入籠尾数
第1回	17.7	2.4	3,321	349.1	6.0
第2回	16.7	2.8	875	67.7	2.2



これまでの調査から，ヌタウナギは，底質と密接に関係していることが分かりました。

底質が細砂(2.0 < 4.0)で水深100m以浅の場所に多く(5.8尾/籠)分布していました。

また，水深100mを超えると急に漁獲が少なくなりました。

まとめ

本県で利用しない資源を海外へ輸出するという今までにない水産業の形であり，未利用資源の活用ができるのではないかと期待しております。

今後は調査海域を広げ，分布域を明確に把握したいと考えております。(漁業部 久保)

「原色魚類大図鑑」北隆館